

処方箋データを用いた高齢者への処方実態調査

現在の日本では超高齢社会が進行している。それに伴い社会保障関係費の中でも特に医療費が増大しており、社会保険のシステムの将来的な破たんが危惧されている。医療費の増大の要因の一つとして考えられるのは高齢患者数の増加である。高齢患者は多剤処方(ポリファーマシー)を受けていることが多いが、内臓機能の低下により薬効が過剰になり、薬害関連の有害事象を引き起こす可能性が一般成人に比べて高くなる。そこで調剤薬局ベースの処方箋データを利用して、高齢者への医薬品処方実態を調査することを検討している。

高齢者に多く処方される薬の中でも、ダビガトラン(製品名プラザキサ、薬価収載日2011年3月11日)という抗凝固薬は2011年8月12日に安全性速報(ブルーレター)が出されている。ブルーレターとは医薬品などの添付文書が改訂された際に、改訂内容が使用制限をかける必要はないが、使用の際に注意喚起すべきものである場合に、製薬企業が作成し厚生労働省の判断によって出されるものである。ブルーレターが出された前後でプラザキサの処方人数や1日摂取量にどれほどの変化があったかを調べることで、プラザキサの処方実態を明らかにするだけでなく、政策評価につながるのではないかと考えている。

今発表では今回利用する調剤薬局処方箋データの概要を紹介し、処方実態調査の一例として行ったダビガトランの1日平均処方量・処方件数の推移について報告する。また卒業研究の方針案について述べる。

参考文献

1. James Lopez Bernal, Steven Cummins, Antonio Gasparrini. Interrupted time series regression for the evaluation of public health interventions: a tutorial. *International Journal of Epidemiology*, 2017, vol.46, No.1, 348-355
2. 今井博久他：『高齢患者における不適切な薬剤処方の基準—Beers Criteriaの日本版の開発』 日本医師会雑誌 137 : 84 - 91、2008
3. 厚生労働省 第3回高齢者医薬品適正使用検討会 資料 2017/07/14
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000171477.html>
4. 引地和歌子他：『過量服薬による致死性の高い精神科治療薬の同定—東京都鑑査医務院事例と処方データを用いた症例対照研究—』 精神神経学雑誌 118 (1) : 3 - 13、2016